

4. 世界農業遺産体験プログラム事例

4.1 世界農業遺産を理解するためのプログラム

i. コンセプト

当プログラムは国東サイトにサイト外から農泊等の目的で訪れる中高生等の学校教育による宿泊プログラムと地域内での学校教育を想定する。宿泊プログラムの場合、1日目の午後に現地実習①を実施、2日目午前中に現地実習②を実施し、地域内の学校の場合それぞれ別の日に実施することも可能である。

ほとんどの場合、世界農業遺産に関する認知度は皆無であるので、世界農業遺産と国東サイトの地域社会について理解できることを目的とする。

ii. 概要

事前学習で世界農業遺産や国東サイトの文化等の概要を理解し、現地での1泊2日の体験実習で現地の地域社会の仕組みや農業の実態などを理解する。

	ねらい	内容	授業時間の目安
事前学習①	基礎知識の理解	世界農業遺産とは 日本の世界農業遺産 国東半島宇佐地域	3h
事前学習②	調べ学習と地域情報の理解	グループワーク・調べ学習の手法の理解 国東半島についての理解 調べ学習の結果の言語化と共有	3h
現地実習①	現地について理解する	地域内の踏査と地域関係者に対するヒアリング 代表的なため池等を回り、地名や地形、土地利用などを全体的に把握し、現地の状況を理解する	半日
実習振り返り①	現地実習①の振り返り 知識や基本的な情報の共有と深めるべき課題の抽出	現地実習振り返り	1~2h
現地実習②	テーマをもって世界農業遺産についての理解を深める	国東サイトの世界農業遺産に関連するテーマを各班が持ち、地域の方と班別に地域内を踏査し、現地でテーマと関連する場所、遺構、現状などを見て体験することでテーマについての理解を深める	半日
実習振り返り②	実習で得た内容の言語化 共有化	地図を基に現地実習②で得られた情報を整理 報告会のために各班テーマを言語化 報告会	3h
まとめ	全体を振り返ることで実習と講義、振り返りや情報等の共有の紐づけを行う	全体の振り返りとアンケート	1h

iii. 実習適地

当プログラムは世界農業遺産国東サイトを学ぶためのモノであり、サイト内の市町村が該当地となる。

実習①で世界農業遺産に関する要素を複数抽出できる可能性の高い地域であればどの地域でも実施可能といえるが、より適当な条件は下記のモノが考えられる。

- ・地域人材の有無：地域内に地域に関わる組織または個人がいる。特にその人材が地域内で様々な合意形成ができる人材でなければならない。個人の能力よりも地域内での立ち位置が重要となる。
- ・ため池の有無：当プログラムはため池と水利用を重視しているため、ため池のある地域で実施される必要がある。一方で国東サイトでため池の価値として示されている連結式のため池はあることは望ましいが、必ずしも連結していなければならないわけではない。今でも利用され、管理者がいる事が重要である。
- ・安全性：実習では地域内を踏査するが、踏査するのに危険な箇所が多数ある地域はお勧めできない。幹線道路の有無、車両が頻繁に通る農道、がけ崩れ、野犬等が危険と考えられるが、危険箇所を活動地域から除くことで対応可能となる。
- ・範囲：当プログラムは踏査が基本となる。車等での移動は人数等の制限があるうえ、歩いた方が地域内の様々な事柄を発見できる。一方で歩いていける範囲内でのプログラムの実施が必要になる。概ね片道 2～3 km程度が半日で活動できる行動範囲といえる。
- ・物語性：地域の水管理などに物語性がある地域は最適地となる。例えば、国東市富来と富来浜の地域では地域外の水利用の交換条件として浜で七島イを乾す権利を得ていた等。
- ・今回試験的にプログラムを実施させてもらった国東市武蔵町松ヶ迫地区、景観調査を行った宇佐市安心院町中山地区、国東市旭日地区、富来地区、杵築市定野尾地区はどれもプログラムを実施できる地区といえる。

iv. 指導者

当プログラムの指導は、主として、教員・コーディネーター・地域関係者の3種によって実施される。特に地域関係者は、グループワークの班の数+ α の人数が必要で、地域内を案内してもらえる「語り部」の役割と、可能であれば、おやつや昼食などで少し地域の食の体験を可能にできる人材が必要となる。

v. 道具・機材

模造紙・ポストイット・ペン・セロハンテープ・できるだけ詳細な地図（住宅地図・地籍図・地形図など）・メモ用紙・振り返りシート・色鉛筆・クリップボード・カメラ・プリンター・PC・プロジェクター・スクリーン・救急箱

vi. プログラム詳細

事前学習①

事前学習①は世界農業遺産に関する基礎知識の取得が主要な目的となる。その為、一般的には講義方式で実施することが望ましい。

一方で、世界農業遺産に関する資料・情報はかなり少ないため、事前準備が必要となる。世界の世界農業遺産を網羅するものは農水省等の HP、国内のサイトを網羅するものは書籍 2 冊、各サイトの HP などがある。また、各サイトではサイトのパンフレットなども作成しておりそれらを取り寄せることが望ましい。

事前学習②

事前学習②は現地での実習の準備の時間としての位置づけである。

主として行うことは、

- ・グループワークのためのチームビルディング
- ・調べ学習・聞き取り調査の手法の理解
- ・現地の土地勘・知識の習得 等である。

受講者の状況により重みを置くべき要件は異なってくる。

学校などですでに班の構成が決まっており、チームビルディングができている場合は調べ学習や聞き取り調査の手法の理解に時間をとり、本件で新しく班を構成する場合はチームビルディングに時間をとる必要がある。

また、事前学習②では、実習地の地図を用い、事前にわかる範囲で色塗りなどをしておくことが望ましい。地図と WEB に公開されている航空写真などを比較することで森林と畑、住宅地程度の違いは理解でき、地名やランドマークの発見なども可能となる。

調べ学習の練習のテーマは全班が同じテーマとするのであれば、「国東半島」がよく、WEB 検索が可能な場合は世界農業遺産をテーマとしてもよい。また、班ごとに違うテーマとする場合は国東のキーワードとなる、六郷満山文化・田染荘荘園景観・米づくり・シイタケ・獣害などをテーマとすると実習時間関連度が高くなる。

現地実習①

現地実習①は地域の概要・世界農業遺産の概要を地域関係者から学ぶことが重要である。

その為、現地関係者の案内によって地域内の代表的な場所（ため池・水路・田・神社など地域によって異なる）を踏査し、地域資源などを掘り出す。

また、現地踏査の直後に地図で場所の確認を行うことで、立地条件などより理解が深まる。スケジュール（案）は下記のとおりとなる。

現地踏査の後などに郷土料理などのおやつなどが提供されると受講者のモチベーションや集中力が持続される。手の込んだモノより、地域の女性陣がつくり慣れたおやつや漬物、庭の果物などでよい。

現地実習①スケジュール		
概要	詳細	注意事項
13:00 顔合わせ ガイド 出発準備 踏査開始	地域関係者と受講者 当日のスケジュール・学びの内容の確認 荷物の確認(飲み物・メモできるもの・タオル等) トイレは基本的にない前提とする 基本は班行動、スポットで全員で話を聞く	任意でダニ除けスプレーなどの使用を勧めるとよい 冬季であっても飲み物の携帯は必須 春季～秋季では首にタオルを巻くことを推奨 長袖・長ズボン推奨
14:00 スポットガイド	ため池や地域の特徴のある場所で全員で話を聞く。特にため池・水路・取水堰・田んぼ・地域を見渡せる高台・獣害防止の柵等は説明があると実習②につなげやすい。	踏査は2時間が限度 事前に下見が必要 特に秋頃はスズメバチに注意する 複数個体が飛んでいる場所は巣や餌場が近い
15:00 休憩	★地域の女性陣等によるおやつ等の振る舞いがあると学びの充実につながる。特に昔ながらの地域のお菓子や漬物は非常に喜ばれるうえに、地域の文化や特性、農産物につながる情報のため価値が高い。	おやつ等の提供は「参加・体験型」で行う必要がある。 無理に作らずとも、秋に庭のカキ、夏に畑のトマトなどで十分
16:00 聞き取り調査	地域踏査終了後、休憩をはさみ、公民館等で聞き取り調査を行う。 地図をベースに現地踏査のルートを確認、踏査中の話題の掘り下げを行う。	受講者に個別に地図と聞き取り用メモ用紙を持たせることが望ましい 聞き取り調査用の地図は拡大しA2～A1を事前に準備しておく
17:00 終了	*1泊2日のプログラムの場合、夜に各班の聞き取りのまとめを模造紙1枚程度にまとめておく 翌日朝報告＋各班のテーマ決めに用いる	*教員・コーディネーターは受講者の聞き取り内容から班の数文現地実習②で各班が掘り下げるテーマをチョイスしておく。 加え、テーマの中で調べておく必要性の高い内容をリストアップする
18:00		

実習振り返り①

現地実習①の終了後、できるだけ早い時点で振り返りを実施することが望ましい。

振り返りでは実習①で聞き取った内容のまとめを行い、地域や世界農業遺産についての全体像を理解することを目的とする。

多くの場合、ため池や水路の維持管理、稲作の衰退、獣害、昔の思い出（どこでどの様な遊びをした）、祭り、食などの話と地域の特性（自慢話や特産品など）が要点として挙げられる。この様な中から現地実習②で用いるテーマを抽出するが、教員・コーディネーターが事前各班の振り返り状況を見つつ、ある程度の題材を予測し、事前にテーマを抽出できていることが望ましい。

また振り返りは模造紙 1 枚程度にまとめ、他の受講者に共有を目的として発表する。この際、聞き手の理解を促進するために聞き取り用のメモを配布していることが望ましい。

現地実習②

現地実習②は宿泊プログラムの場合 2 日目午前実施する。

実習②の目的は、地域や世界農業遺産に対する理解を深めることにある。

その為、各班が専門的なテーマを持ち、地域関係者とともにそのテーマを深める調査を行う。現地確認や簡易な体験が含まれることが望ましい。

現地実習② スケジュール			
	概要	詳細	注意事項
8:00			
9:00	* 振り返り発表	実習①の振り返りを各班発表 内容の中から重要なテーマを抽出し、各班がテーマを掘り下げる	各班の振り返り内容をメモするシートを配布
		発表は各班1～3分 総評＋各班のテーマ決定で45分程度	
10:00	テーマ別現地調査	各班がテーマ別に地域内を調査する	各班に現地関係者が同伴し、ガイドを行う。それぞれ得意分野があるとよい。
			各班で簡単にできる体験活動を含めることが望ましい。 例：魚釣り・シイタケとり・溝さらい・樋の開閉・果物採取など
11:00	聞き取り調査	公民館等で地図をベースに調査情報をまとめる。足りない、不明な点は再度現地へ出向く(可能な場合)	
12:00	簡易食体験	昼食に付け足す形で簡易的な食体験ができるとうい 例：イノシシ・シカ肉の炭火焼き・シイタケの炭火焼き・畑の野菜採取と食・おにぎり体験・かまどで炊飯など	体験であることが重要 提供されるより参加できることが望ましい
13:00			

体験活動は簡単にでき、安全であることが前提であるが、普段できないことの体験が良い。

シイタケや地域内に生っている季節の果物（カキ・クリ・ウメなど）の採取体験や魚釣りなどが比較的簡単であるが、準備が可能であれば、地下水路の「貫（ヌキ）」の探索や川遊び、田んぼ作業、シイタケのコマうちやクヌギの伐採なども実施できるとよい。ただし、危険度の高い活動は安全性の確保のための準備と、安全機材や指導者の人数の確保が必要となる。危険を伴うと思われる箇所への立ち入りは、地域関係者だけでなく、教員やコーディネーターも同伴し、安全を確保する。

各班のテーマは地域関係者の人材によっても考慮する必要がある、地域関係者が協力しやすいテーマとすることが望ましい。また、重要な要素は事前に地域関係者に提示しておき、内容の解説の準備をしてもらう必要がある。

昼食が出せる場合は、地元の食材を用いた体験が集うができるとよい。難しいモノでなく、シイタケを採取し、自分で炭火焼きにして食べる体験やかまどでの炊飯体験などが望ましい。おにぎりの握り方なども経験のない受講者は多いと思われるので、実施しやすい。

実習振り返り②

振り返り②は実習②で深めたテーマについてまとめ、他の受講者にわかりやすく説明することが重要である。体験や知識の言語化と共有は体験活動の重要な要素となる。

振り返り①よりも十分な時間をとり、各班のテーマについて取りまとめる。
模造紙等に取りまとめ「誰にでもわかり易い」ように解説を行えるようにする。
文字だけでなく、絵や写真、地図も利用できることが望ましい。

この際、現地で写真を撮ってきたものを利用することは望ましいが、現場での印刷は時間と手間を多く要するのでお勧めできない。事前に写真を印刷して持ってくるようにすることが望ましい。

発表会は各班5分程度を目安とし、質疑の時間も確保する。

また、振り返り①同様に、聞き手の理解を深めるために、メモ用紙を提供することが望ましい。

振り返り②の発表会は各班がブース展開し、ブースに来た受講者に対して内容を発表するワールドカフェ方式が望ましい。これは、語り手・聞き手ともに人数が少なくなり、より集中して発表会が進捗することと、聞き手は語り手の近くで発表を聞くことができ理解が促進されること、何度も発表することで語り手の自らの活動への理解が促進されることなどが利点として挙げられる。

まとめ

まとめはそれぞれ方法があるが、全体像の振り返り（世界農業遺産とは・国東サイトとは・実習地域とはなど）と個人の振り返りが必要である。

この振り返りの中で、個人では、今回の体験をもとに自分なら「どうするか」をレポートにするなどの課題を提示すると、体験を主体的な思考に活かすことができ、体験活動が能動的に行われたものとして終了する。地域で学んだ地域課題への対応や世界農業遺産の活かし方等テーマは様々に設定できる。

vii. プログラムの効果と可能性

当プログラムは世界農業遺産国東サイトの実態の理解、国東サイトの地域と農業の実態の理解、地域の生活の理解につながる。

一方で、内容が総合的で複雑なため、中学生以上が対象者として望ましい。

小学生の場合、テーマを単一に絞って体験を行う方が良い。

グリーンツーリズムなどで遠方からの来訪によるプログラムの体験の場合、まとめに時間をとり丁寧に振り返りを行うことが望ましい。一方で地域内の学校等では、付随する体験として、シイタケのコマ打ち体験や田んぼの生きものしらべ、稲刈体験などを追加すると学びの広がりができる。

viii. 参考にできる WEB サイト・書籍

国連食糧農業機関 GIASH に関する HP(英語のみ)

(<http://www.fao.org/giahs/en/>)

国連食糧農業機関 HP FAO とは・世界農業遺産について等の情報

(<http://www.fao.or.jp/index.html>)

農林水産省世界農業遺産 (GIASH) に関する HP

(<http://www.maff.go.jp/j/nousin/kantai/giahs1.html>)

能登サイト HP

(<http://www.pref.ishikawa.jp/satoyama/noto-giahs/index.html>)

佐渡サイト HP (佐渡市 HP 内)

(<http://www.city.sado.niigata.jp/topics/gihas/index/index.shtml>)

阿蘇サイト HP

(<http://www.giahs-aso.jp/>)

静岡サイト HP

(<http://kakegawa-kankou.com/chagusaba/>)

国東サイト HP

(<http://www.kunisaki-usa-giahs.com/>)

岐阜サイト HP (岐阜県 HP 内)

(http://www.pref.gifu.lg.jp/kensei/ken-gaiyo/soshiki-annai/nosei/noson-shinko/giahs/giahs_index.html)

和歌山サイト HP (和歌山県 HP 内)

(<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/000200/ume/index.html>)

宮崎サイト HP (宮崎県 HP 内)

(<http://www.pref.miyazaki.lg.jp/nosonkeikaku/shigoto/nogyo/nougyouisan.html>)

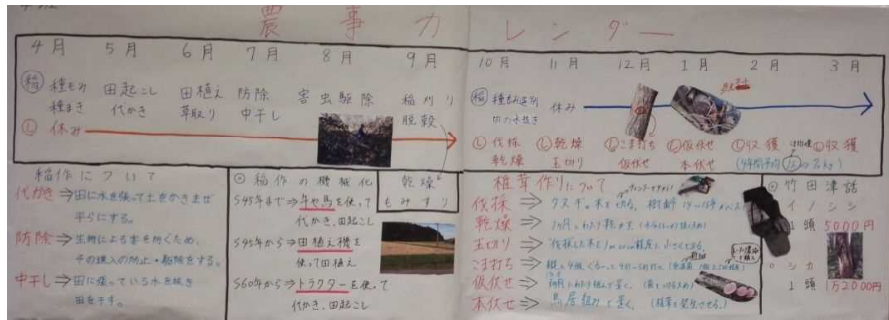
書籍

1. 「世界農業遺産—注目される日本の里地里山」 武内和彦 祥伝社新書 2013 年
2. 「次世代につながる美しい農の風景 世界農業遺産」 世界農業遺産 BOOK 編集制作委員会 2015 年

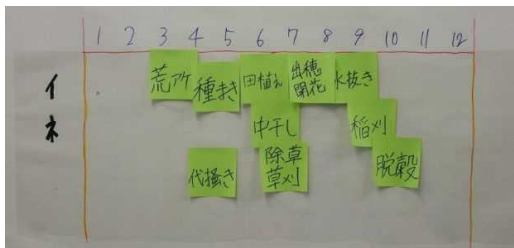
4.2 世界農業遺産の要素を切り取ったプログラム例

世界農業遺産プログラム			
タイトル	シイタケと稲作のベストマッチ(農事カレンダー編)		
ねらい	世界農業遺産の認定要素の一つとなっているシイタケ栽培と、水稻栽培の農事カレンダーを知ることで、最適といわれる稲作とシイタケ栽培の作業効率の相性の良さを知り、稲作の農閑期の仕事であった炭焼きの最新の形としてのシイタケ栽培の価値について理解する。		
キーワード	シイタケ・稲作・農事カレンダー		
指導者	教員orインタープリター 1～5名		
参加者区分	中・高・大・内・外	参加者人数	小班4～8人、最大10班程度
道具・機材	模造紙・マジック・セロテープ・どこでもシート(透明)・付箋・プロジェクター・PC		
概要	①シイタケ原木コマうち栽培の歴史を学ぶ ②模造紙にカレンダーを書く・透明シートにカレンダーの枠をなぞる ③付箋にシイタケ栽培の年間スケジュールを作業ごとに記載する ④③の付箋を透明シートのカレンダーの適切な位置に並べる ⑤新しい透明シートにカレンダーの枠をなぞり、付箋に水稻栽培の作業を記載する ⑥模造紙上のカレンダーに⑤の付箋を適切な時期に並べる。 ⑦④のシートと⑥のシートを重ね、原木シイタケ栽培と水稻栽培のスケジュールを比較し、作業時期がほとんどかぶらないことを理解する。		
注意事項	コマ打ち体験等シイタケ栽培に関する体験と組み合わせるとよい		
全体スケジュール			
日時	内容	備考	時間
	シイタケ栽培と稲作の歴史	フッキングプログラム	45min
	シイタケと稲作のベストマッチ	メインプログラム	45min
	コマ打ち体験	フォロープログラム①	2H
	整理と振り返り	フォロープログラム②	45min

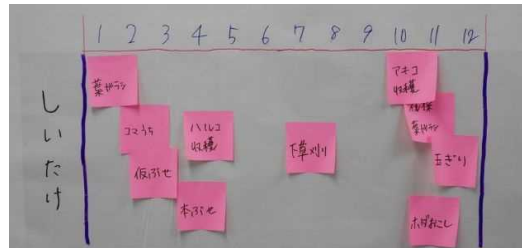
*詳細な手順は 3.3 シイタケ栽培と水稻栽培の合理性に関するプログラムの試験的実践を参照



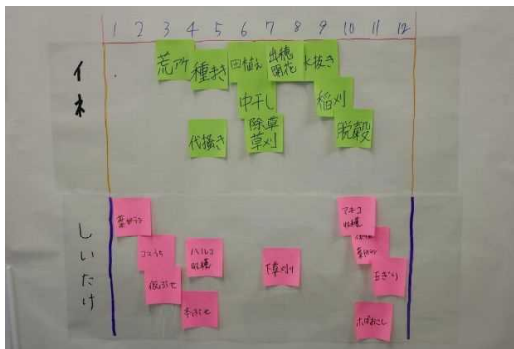
稲作とシイタケ栽培の農事カレンダーを合わせたもの



稲作のカレンダー



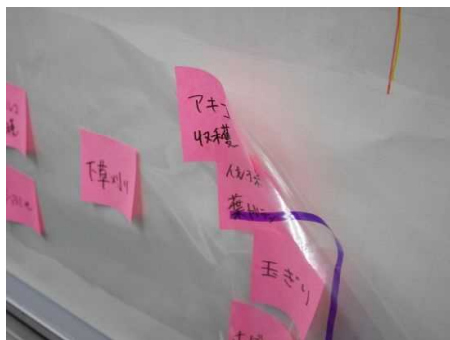
シイタケのカレンダー



並べると作業の時期が異なる



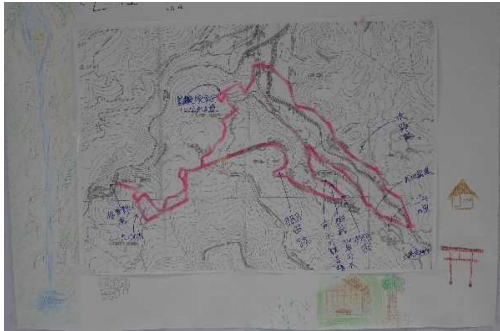
カレンダーを重ねると稲作とシイタケ栽培の農作業がずれていることがよくわかる



透明なシートを利用するとカレンダーを重ねることができ理解しやすい(どこでもシート透明など)

- | 稲作 10 項目 | シイタケ 10 項目 |
|----------|------------|
| ● 種まき | ● 玉切り |
| ● 田植え | ● 仮ぶせ |
| ● 稲刈 | ● アキコ収穫 |
| ● 水抜き | ● ハルコ収穫 |
| ● 出穂・開花 | ● 葉ガラシ |
| ● 脱穀 | ● コマうち |
| ● 除草・草刈 | ● 本ぶせ |
| ● 中干し | ● 伐採・葉ガラシ |
| ● 代掻き | ● 下草刈り |
| ● 荒アケ | ● ホダおこし |

世界農業遺産プログラム			
タイトル	世界農業遺産と地域を楽しむフットパス(ウォーキング)マップをつくらう		
ねらい	地域内に点在する地域資源と世界農業遺産を発見し、その魅力を伝える工夫をすることで地域理解と世界農業遺産への理解をはかる		
キーワード	マップ・フットパス・地域資源		
指導者	教員・地域関係者		
参加者区分	小・中	参加者人数	小班4~8人、最大5班程度
道具・機材	地形図・住宅地図・模造紙・セロハンテープ・どこでもシート(透明)・カメラ・色鉛筆・マジック・付箋・トレーシングペーパー		
概要	<p>地域を踏査し、地域資源や地域の魅力とともに世界農業遺産の要素を自分たちで発見し、それを外部の人が歩いてくれるようなフットパスルート(ウォーキングルート)と地域マップとして提案する。</p> <p>ルート踏査中に地域の方に休憩所を提供してもらい、お茶とお茶請けのおもてなしをしてもらえるといい。その際に地域の話の色々と聞くことができる。</p>		
注意事項	学外での活動が多くなるため、安全に十分に注意する マップは実測図ベースで作成する		
全体スケジュール			
日時	内容	備考	時間
	①地域の資源と世界農業遺産について	自分たちの住む地域にも農業遺産の要素や地域資源がたくさんある「かも？」と提案する	1H
	②マップとは？フットパスルートとは？どのようなコースやマップが良いかの理解		1H
	③地域の魅力を探しに行こう！現地踏査①	対象地を自由に歩くポイントとして、地域を説明できる人のところへ行く	3H
	④現地踏査振り返り	現地踏査の情報をまとめる	1H
	⑤地域の魅力を探しに行こう！現地踏査②	足りない場所気になる場所を再踏査	3H
	⑥現地踏査振り返り+マップづくり(マップに掲載する要素選択とルートづくり)	歩けるコースを試作する	2H
	⑦地域の魅力を探しに行こう！現地踏査③ルート踏査	自分たちでつくったコースを実際に歩いてみる	3H
	⑧ルートの確定とマップづくり	歩いた反省を踏まえコースとマップを完成させる	3H



マップの試作



マップの試作 班によってルートが異なる



つくったマップの発表の機会



作成した小学生がルール案内



小学6年生が作成した世界農業遺産と地域資源のフットパスマップ

世界農業遺産プログラム			
タイトル	田んぼの生きものしらべ		
ねらい	田んぼの生きものについて、実際に採取し自分たちで調べることで身近な生物と生物多様性について理解する		
キーワード	田んぼ・生態系・生物多様性		
指導者	教員・コーディネーター・田んぼ地権者＋生物専門家		
参加者区分	中・高・大・内・外	参加者人数	最大30人程度
道具・機材	タモ網・バケツ・トレイ・虫眼鏡・プラケースなど 図鑑(田んぼの生きもの図鑑・水生生物ハンドブックなどが必要)		
概要	<p>身近な田んぼで生きもの観察をすることで、田んぼの生物多様性を理解する。 田んぼには多様な生きものが生息しており、田んぼがイネの生産の場だけでなく、他の生物にとっても重要な生態環境であることを理解する。 田んぼで生きものを採取し、自らしらべることで、身近な発見をさらに深める手法を理解する。 観察に合わせ、地域の生態系の話、世界農業遺産と生態系の話などを絡めるとよい。</p>		
注意事項	刺す昆虫・傷のできやすい草・触った後に目を触ると結膜炎になるカエルなどがいるので、救急処置のできる準備と実施後の石鹸での手洗いは徹底する。		
全体スケジュール			
日時	内容	備考	時間
	田んぼの生きものしらべ	現地で生きもの採取	1H
	採取した生きものの観察	場所を移して生きもの観察	1～2H



生物の観察

本研究は国東半島宇佐地域世界農業遺産推進協議会が実施する平成 27 年度「国東半島宇佐地域世界農業遺産調査研究委託業務」によって実施されたものです。